

1. 養成すべき人材像と教育内容のあり方について

第2回委員会における主な御意見	御意見に対する考え方
(実習)	
農林大学校よりも実践的な能力が低下することがないように、十分な実習時間を確保するようにすべき。	基本構想骨子素案に反映 3(2)イ 職業専門科目 ・十分な実習時間を確保し、実践的な農林業技術を修得
同じ実習先に継続して行くことで、実習先の経営者の技術力だけでなく人間力も学び取るようにすべき。	基本構想骨子素案に反映 3(2)カ 臨地実務実習 ・学生が学びたい実習先を選択できる、現場で生の生産技術や農林業経営、更には経営者の人間力などを学べるなど、効果的な実施方法、実習内容を検討
大学から実習先を提供するのではなく、自分で実習先を選ぶなど、実習が単に技術の研修を越えた場になるようにするのも良いのではないかと。	
学生が実習先の情報を収集するのは難しいので、大学が情報提供を行って、その上で自分でアポイントを取る等の方法が良いのではないかと。	
(カリキュラム)	
経営については、例えば、畜産であれば、地元の飼料の単価等のリアルな数値を用いて、それをベースにした変動費、固定費を計算し経営計画を立てるとこれくらいの利益が上がっていくというような、リアルな数字がイメージできる授業を取り入れるべきでないかと。	カリキュラムの具体的な内容については、基本構想策定後に行う基本計画策定の中で検討していくこととなりますので、御意見については、基本計画の検討に反映させていただきます。
財務分析とかは基本の部分だけで十分ではないかと。それよりは安全衛生等を重点的に教えるべきでないかと。	
企業内実習の時間が長いので、カリキュラムの組み立て、授業スケジュールを早い段階から考え、授業と実習がうまく両立できるようにする必要があります。	基本構想骨子素案に反映 3(2) カリキュラムの編成方針 ・4年間で効果的に知識・技術を修得できるよう、講義や実習のカリキュラムを組み立てる
現在の農林大学校の2年間では農産物や畜産物の生産をワンサイクルしか経験できないため、このカリキュラム内容を4年間で学ぶことによって学生の経験値を更に上げ、高度な実践力を有する人材の育成につなげるべき。	
教育内容と4年間の教育の流れは同時に検討すべきではないかと。入ってくる人に、面白そうだと思うカリキュラムが必要。	なお、カリキュラムの具体的な内容については、基本構想策定後に行う基本計画策定の中で検討していくこととなりますので、御意見については、基本計画の検討に反映させていただきます。
経営部門に応じた資格・免許を取るために授業内容が制約を受け、中途半端にならないよう、資格・免許がどこの科目に配分されるのか精査した方が良いのではないかと。	
総合科目については、卒業論文というよりは、学ぶテーマが複数あり、自分で学ぶテーマを整理し、研究するような学びがあっても良いのではないかと。	カリキュラムの具体的な内容については、基本構想策定後に行う基本計画策定の中で検討していくこととなりますので、御意見については、基本計画の検討に反映させていただきます。

第2回委員会における主な御意見	御意見に対する考え方
(専門職大学の特色)	
本県農林業は4地域毎に特色があるので、例えば、山形大学農学部と実習林や農場を共有し、うまく活用することが特徴になるのではないかな。	基本構想骨子素案に反映 5(4) 他大学等との連携 ・他の大学との相互交流や連携を深める
県内4地域にそれぞれの特色があることを踏まえ、置賜にも学生と学べる場が必要ではないかな。	基本構想骨子素案に反映 3(2)カ 臨地実務実習 ・山形県は4地域において、それぞれの地域の特性を活かした特色のある農林業が展開されていることから、4地域各地において優れた農林業を展開する実習先を確保
例えば、①英語力が身に付く、②必要な資格や免許が数多く取得できる、③全寮制で人間力が磨かれる等といった他の大学にない特色を作ることで、県内からだけでなく県外からの応募が期待できるような専門職大学にしていくべき。	
農林業を担う職業人の育成なので、実践力、課題解決能力を磨くことに重点化すべき。	基本構想骨子素案3(1)に、専門職大学で育成する人材像を記載。 なお、カリキュラムの具体的な内容については、基本構想策定後に行う基本計画策定の中で検討していくことになります
学生自らが管理する圃場を持ち、課題設定をして実習活動を行い、仮に失敗した時、それを糧にして次の展開を学生自らに考えてもらう教育体制が必要ではないかな。	
専門職大学が求める人材像を絞り込んでいく必要があるのではないかな。	
専門職大学は、地元で優れた人材に残ってもらうということを大事にすべき。	基本構想骨子素案に反映 5(2) 県内定着に向けた学生への支援 ・卒業後の学生が県内で新規就農しやすいような仕組みや卒業生へのフォローアップ体制の検討
(大学等との連携)	
県内には県立の試験研究機関が各地域にあり、山形大学農学部(鶴岡市)、工学部(米沢市)もあることから、これらの立地の良さを活かし、農林業人材育成のため、専門職大学を中心に互いに連携すること(県内を1つのキャンパスとして捉える)を検討すべきではないかな。	基本構想骨子素案に反映 3(3) 本県試験研究機関との連携 ・大学の実習地としての協力、共同研究など、本県農林業の発展に向け連携 5(4) 他大学等との連携 ・他の大学との相互交流や連携を深める
将来にわたって大学として生き残っていくためにも、グローバルに通用する人材を育てている秋田の国際教養大学と本県の専門職大学が連携することを検討してはどうか。	基本構想骨子素案に反映 5(4) 他大学等との連携 ・他の大学との相互交流や連携を深める

2. 教育体制のあり方について

第2回委員会における意見	意見に対する考え方
<p>(教育の支援体制)</p> <p>地元の協力については、①設置場所周辺だけではなく、県下全域から実習の場を提供してくれるところを募集することに加え、②専門職大学の設置を契機に、卒業後に初期の負担が少なく新規就農できるプログラムを県とJA等で一緒に考えてはどうか。</p>	<p>基本構想骨子素案に反映</p> <p>3(2)カ 臨地実務実習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・山形県は4地域において、それぞれの地域の特性を活かした特色のある農林業が展開されていることから、4地域各地において優れた農林業を展開する実習先を確保 <p>5(2) 県内定着に向けた学生への支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・卒業後の学生が県内で新規就農しやすいような仕組みや卒業生へのフォローアップ体制の検討
<p>(教員)</p> <p>スムーズな教員確保につなげるため、他の大学とクロスアポイントメント※を活用すべき。</p> <p>※研究者等が大学、公的研究機関、企業の中で、二つ以上の機関に雇用されつつ、一定の条件下で、それぞれの機関における役割に応じて研究・開発及び教育に従事することを可能にする制度</p>	<p>基本構想骨子素案に反映</p> <p>4(1) 教員組織</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教員の確保にあたっては、他の大学とのクロスアポイントメントについても検討
<p>自ら農産物等を作って売ったことがあるような実践的な教員を数多く配置すべき。</p> <p>実務家教員を数多く配置すべき。</p>	<p>基本構想骨子素案に反映</p> <p>4(1) 教員組織</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教員の素養(教育経験、学位、研究実績、実務経験)に偏りが生じないように、そのバランスを考慮
<p>(編入学)</p> <p>専門職大学と併設して農林大学校又は短期大学があるとすると、3年次編入を行うのか。</p>	<p>基本構想骨子素案に反映</p> <p>4(2) 入学者の選抜方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・入学者の多様性や学ぶ意欲の高い学生を確保するため、多彩な入学者の選抜方法を設けることを検討
<p>農林大学校から専門職大学に3年次編入を行う場合、例えば、本来1年次にやるような科目を3年次に持っていき、農林大学校と専門職大学で1、2年次を併用して同じ授業とすることにより教員の負担軽減にもなりうるのではないか。</p>	<p>基本構想骨子素案に反映</p> <p>1(4) 専門職大学と本県農林大学校の関係</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新たに整備する専門職大学の高度な教育機能と、農林大学校の持つ充実した実習機能を相互に活用するため、両校の連携を強化 ・農林大学校を専門職大学の附属校と位置付けるなどにより一体的に運営 <p>なお、具体的なカリキュラムの内容については、基本構想策定後に行う基本計画策定の中で検討していくことになります</p>

第2回委員会における主な御意見	御意見に対する考え方
<p>(研修、フォローアップ)</p> <p>農林業者の経営のステージに応じた研修教育の場になるよう検討すべき。</p>	<p>基本構想骨子素案に反映</p> <p>5(1) 地域との連携や貢献</p> <ul style="list-style-type: none"> ・リカレント教育、研修教育など、多様な学習の機会等の提供 <p>なお、具体的な研修の内容については、基本構想策定後に行う基本計画策定の中で検討していくことになります</p>
<p>(定員)</p> <p>専門職大学と農林大学校を併せて定員を検討するに当たっては、数ではなく質にこだわり、学ぶ意欲の高い学生を確保して欲しい。県内だけではなく県外も含めてどのくらい確保できそうなのかよく分析して定員設定すべき。</p> <p>定員が少ないと、学生間のコミュニケーションや多様性が減ってしまう。一方で静岡県の25人との比較や18歳人口の推移を考えると、25人は多すぎなのかもしれないし、県の農業生産の目標から考えると25名では不十分かもしれない。</p>	<p>定員の規模については、基本構想骨子素案に記した視点や、アンケート結果を踏まえ、引き続き検討していきます。</p>
<p>定員が25名しかいない場合、教員数がそれと同じ程度というのは大学運営上あり得ないのではないかと。学生数が増えれば教員数は多くなるが、定員が25名の場合の適正な専任教員数は5人から8人程度。それではなかなか教育も難しいので、もっと学生数を増やすべき。そのためには、農林大学校と融合するような教育方法を検討することにより、適切な大学教育が行えるようにすべき。</p>	<p>基本構想骨子素案に反映</p> <p>1(4) 専門職大学と本県農林大学校の関係</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新たに整備する専門職大学の高度な教育機能と、農林大学校の持つ充実した実習機能を相互に活用するため、両校の連携を強化 ・農林大学校を専門職大学の附属校と位置付けるなどにより一体的に運営 <p>なお、定員の規模については、基本構想骨子素案に記した考え方、アンケート結果を踏まえ、引き続き検討していきます。</p>
<p>先行事例の静岡県の場合は、神奈川県など隣県に人口の多い県があるので、隣県から入学志望者を呼び込むことも視野に入れているのではないかと。静岡県に確認した上で、山形県の場合にも、隣県の宮城県等から入学志望者を呼び込むことについて戦略的に検討すべき。</p> <p>25名程度の定員は人数としては少ないとは思いますが、今後の県内の18歳人口の見通し等を踏まえればやむを得ない面もあるかもしれない。県外から学生を集めることも検討すべき。</p>	<p>基本構想骨子素案に反映</p> <p>4(2) 入学者の選抜方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・入学者の募集に際しては、山形県内外から、広く志願者が集まるような大学を目指す <p>なお、定員の規模については、基本構想骨子素案に記した考え方、アンケート結果を踏まえ、引き続き検討</p>
<p>現在の農林大学校の林業経営学科の在校生でも、林業を家業としていない学生も多いため、入学者を確保する手段の多様化に努めるべき。生徒を増やしていければ良い。</p> <p>多様な入学者が学べるように、また、受験する対象に合わせた受験区分が大事。また、社会人が入らないと意味がない。</p>	<p>基本構想骨子素案に反映</p> <p>4(2) 入学者の選抜方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・入学者の多様性や学ぶ意欲の高い学生を確保するため、多彩な入学者の選抜方法を設けることを検討

第2回委員会における主な御意見	御意見に対する考え方
<p>(設置場所)</p> <p>設置場所は農林大学校の場所を活用すべき。道路等のインフラの整備も合わせて行うべき。</p>	<p>設置場所については、基本構想骨子素案に記した視点を踏まえ、引き続き検討していきます。</p>
<p>(試験研究機関)</p> <p>専門職大学と試験研究機関との連携もしっかり図っていくべき。</p> <p>専門職大学と既存の試験研究機関を連携させることは学生にとっても魅力になると考える。地域課題解決にあたっては研究機関との連携が必要不可欠であり、既存の4か所の産地研究室、試験研究機関の良さを活かして検討を進めるべき。</p>	<p>基本構想骨子素案に反映</p> <p>3(3) 本県試験研究機関との連携</p> <p>・大学の実習地としての協力、共同研究など、本県農林業の発展に向け連携</p>